

重点取組⑤ スマート林業による効率的な施業の推進

○労働人口の減少や木材生産量の増加などに対応するため、ICT等の先進技術を幅広く活用した「北海道らしいスマート林業」を推進し、林業生産活動の省力化・低コスト化を図る。

現状・課題

○林業を取り巻く状況

・今後、伐採や再植林の増加が見込まれる一方、林業労働力の不足が懸念

【課題】

・資源把握から造林、素材生産に至るまで、新たな技術を活用して効率的に作業を行うスマート林業の推進が必要
・技術を活用できる人材の育成が必要

○効率的な素材生産・流通

・ハーベスタの導入が進む中、木材の生産や流通において、丸太検知・受入の作業は人力が主体

【課題】

高性能林業機械のICT機能やデジタルデータを活用した生産・流通の効率化が必要

○森林資源の的確な把握

・ICTを活用した森林施業に必要な資源情報が不足

【課題】

精度の高い資源情報を簡易かつ安価な方法で把握することが必要

○造林・保育作業の省力化

・植え付けや下草刈り等の造林作業は人力が主体で省力化が進んでいない

【課題】

植栽木の位置情報の活用やコンテナ苗の利用拡大等による造林・保育作業の省力化・効率化が必要

令和6年度の取組

◎伐採作業及び造林・保育作業等の効率化

●スマート林業実装推進事業費*（一部）（再掲）

・産学官金が連携した協議会による実証

道、市町、林業・木材産業事業者、大学、金融機関等による協議会において、デジタルデータによる木材生産管理や資源情報の高度化、造林作業の機械化など森林施業や木材の生産・流通の効率化を図る実証を実施

- ・実演会などによるスマート林業技術の普及PR
- ・スマート林業技術を活用できる人材を育成する研修を実施
- ・スマート林業の定着に向けた機器等の導入への支援

○衛星画像を活用した森林資源の把握（再掲）

・衛星画像の解析によるトドマツ人工林等の資源量把握

○天然林資源の把握・活用の取組（再掲）

・道有林における天然林資源の持続的な利用に向け航空レーザーデータの活用による資源の効率的な把握

●森林整備事業（再掲）

・計画的な造林や間伐などの森林施業への支援や木材搬出等に必要な林道等林内路網の整備への支援

●低コスト再造林対策事業費

・ドローンによる苗木運搬やコンテナ苗を活用した低密度植栽など、再造林への支援

●合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費

（コンテナ苗生産基盤施設等整備）（再掲）

・生産性向上等を図るためのコンテナ苗生産基盤施設整備等への支援

○コンテナ苗の利用拡大

・「北海道コンテナ苗利用拡大推進方針」に基づき、関係者が連携して、生産体制の整備やコンテナ苗の優位性等の幅広い普及を進め、利用の一層の拡大を図る

●：予算事業、○：非予算の取組 *：森林整備等支援事業費



＜現地実演会＞



＜タブレットを活用した丸太検知＞



＜ドローンによる苗木運搬＞